

見つめよう・関わろう「自然・自分・友だち」

大竹市立大竹小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 自然

体験活動場所 もみのき森林公園

【学校紹介】

○ 大竹市は、広島県の西部県境に位置し、人口約3万人の臨海工業都市である。県境を流れる小瀬川、大河原山など自然環境も豊かだが、児童は平野部の住宅地を中心に居住しており、自然体験が豊かとは言えない。また、学校行事等に積極的に取り組み、最後までやりとげようとする意欲はあるが、主体性やたくましさ、友だちとの関係を上手に築くことのできるコミュニケーション能力や、集団で問題を解決する力などに課題がある。

○ 校長名：高橋 晴夫

○ 児童数（学級数）：691名（23学級）

○ 所在地：広島県大竹市白石2丁目1-1

○ 電話番号：0827-52-3177

○ URL：otakesho@alto.ocn.ne.jp



学校景観

【体験活動のねらい】

- 自然体験活動を通して、自然や生命の大切さに気付き、尊重する態度を育成する。
- 友だちとかかわることを通して、協同して学ぶ力や主体的に行動する力を育成する。
- 自分や友だちのよさを感じとらせ、家族への感謝の気持ちを深めさせる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
6月	道徳の時間 ・主題名「自然を愛する心」 【内容項目3-2】 ・資料名「一ふみ十年」 ・ねらい「自然の偉大さを理解し、自然を愛護する態度を養う。」	1	道徳	学校	担任・生徒指導主事のTT
7月	野外活動について (オリエンテーション) ・野外活動への関心を高め、学習の見通しをもつ。 ・みんなの心が一つになるような取組を考える。 (例：3組の元気もりもり大作戦)	1	特別活動 (学級活動)	学校	担任

8月	野外活動（長期宿泊体験） （3泊4日） ・ 集団ゲーム ・ 子ども神楽団との交流 ・ ネイチャーゲーム ・ スタンツの練習 ・ キャンプファイヤー ・ 薪割り・火おこし ・ 野外炊飯 ・ 星座観察 ・ 家族への手紙 ・ ボランティア活動	24	特別活動 (学校行事)	もみのき森 林公園	全教職員 施設関係者
9月	野外活動のまとめ（振り返り） ・ ポートフォリオの作成	3	総合的な学習の時間	学校	担任
	・ 川柳・詩の作成	2	国語	学校	担任
10月	学習発表会に向けて ・ よびかけの作成・練習	3	総合的な学習の時間	学校	担任
	・ 歌の練習	3	音楽	学校	音楽担当
	学習発表会 ・ ステージ発表	2	特別活動 (学校行事)	学校	担任 音楽担当

【体験活動の概要】

○吉和子ども神楽団との交流

<めあて>

- ・ 地域に伝わる伝統文化を鑑賞し、地域の伝統文化のよさを感じよう。
- ・ 吉和子ども神楽団の人たちに感謝しよう。

<児童の様子・指導のポイント>

- ・ 同世代の子どもたちが、地域の伝統文化を継承していることを知り、自分たちの地域の文化を見直す機会となった。
- ・ 神楽鑑賞後に交流会をもち、児童が主体的に神楽団の子どもたちとかかわる場を設定した。「なぜ、神楽をしようと思ったのか。」など、多くの質問が出され、神楽団の子どもたちとの交流を深めることができた。



子ども神楽団との交流

○薪割り・火おこし・野外炊飯

<めあて>

- ・ 説明をよく聞き、ルールを守って薪を割ったり、火をおこしたりしよう。
- ・ うまくいかないことがあった時は、自分たちで考えて解決してみよう。



薪割り

- ・自分の仕事は進んでしっかりとやろう。
- ・準備から最後の片付けまで、みんなと協力し合ってやろう。

<児童の様子・指導のポイント>

- ・薪割り・火おこし・野外炊飯の体験活動に一連の流れをもたせ、時間を十分確保したことで、児童は根気よく、じっくりと時間をかけて取り組むことができた。
- ・薪割り・野外炊飯は、班で協力しないと次には進めない活動を仕組んだことで、児童が自然に協力し合う姿が見られた。また、体験活動を通して、達成感や充実感を共有することができた。

○ボランティア活動

<めあて>

- ・お世話になった「もみのき森林公園」をきれいにしよう。
- ・自分の仕事は、進んで最後までしっかりとやろう。

<児童の様子・指導のポイント>

- ・最終日にボランティア活動を設定し、お世話になった施設の職員から、自分たちの使った施設をきれいにしたいと伝えてもらったことで、児童は、感謝の気持ちをもって活動をすることができた。
- ・児童は、予想以上に熱心に活動したため、設定していた1時間の活動時間を短く感じたようである。



ボランティア活動

【体験活動の効果を高める事後学習】

○国語科「野外活動～心の詩～」

- ・「書くこと」の指導において、「野外活動で体験したことをもとに、詩や川柳を創作する」という言語活動を行う。
- ・実際に体験したできごとを素材にしたことで、児童が詩や川柳を創作する意欲が高まり、目的や意図に応じて書く力が育った。

た (女子児童の作品)	その時心が一つになつ みんなこんな気持ち みんなこんな気持ち	明日からもがんばろう ありがとう なかよくしよう ありがとう	笑っている みんなを楽しませよう 笑っている みんなを楽しませよう	やったーと思う みんなの明るい気持ち やったーと思う みんなの明るい気持ち	る間 みんなの明るい気持ち やったーと思う みんなの明るい気持ち	ともえる炎を囲んでい 「ボウボウ」 ともえる炎を囲んでい 「ボウボウ」	思っていることが同じ それはみんなの気持ち 思っていることが同じ それはみんなの気持ち	でも同じことがある みんなちがう キャンプファイヤー みんなちがう	ほのおを囲んで キャンプファイヤー みんなちがう ほのおを囲んで
----------------	--------------------------------------	---	--	--	---	--	--	--	---

【交流先や施設等との連携】

- 体験活動のねらいや趣旨、予算を宿泊先の施設に伝えた上で、体験活動の内容を決定し、協力を依頼した。
- 交流先の施設への事前の打ち合わせのために、第5学年の担任を中心に宿泊先の施設を3

度訪問し、児童の宿泊場所等の施設や体験活動の場所を確認した。また、体験活動の実施については、各学年で担当を割り振ったため、担当学年ごとに体験活動の現地を下見した。

- アレルギー等、児童の健康上の課題に対応するため、食事内容や保健室の準備、緊急の事故や病気に対応するための医療機関等の確認を事前に綿密に行った。
- 宿泊先の施設の職員への挨拶等の指導を丁寧に行い、児童に自分たちがお世話になっていることを意識させた。

【評価の工夫】

- 体験活動についての「振り返りシート（心のしおり）」を作成し、それぞれの体験活動ごとに設定しためあてに沿って、一人一人に体験活動後の振り返りを丁寧に行わせた。
また、本校の「人権教育の目標」である「自他を大切にする児童の育成」を視点に「自分や友だちのよさ」についても記述して振り返ることを継続的に行った。
- 集団行動や友だちとの関係づくりが苦手な児童が、4日間友だちと過ごすことで、自信を付けたり、友だちと過ごすことの楽しさに改めて気付くことができたりした。また、3日目の夜に家族からの手紙を読んだ後、家族へ手紙を書かせたところ、多くの児童が、野外活動を振り返りながら、家族への感謝の気持ちを素直に表現することができた。

「家族にあてた手紙」より

父さん母さんへ	家族みんなへ
いつもありがとうございます。毎日料理を作ってくれてありがとうございます。毎日寝るときは、正直さみしいです。変な天気だけど、ケガはしてないから大丈夫だよ。友だちと仲良くしているからね。親子丼とってもおいしかったよ。野活は思い出なかったよ。料理はとってもおいしいよ。	自分は、ほかの人のタオルをよごしたり失敗も多いですが、キャンプファイヤーなど楽しいことがあって、住みごちが嬉しいです。安心して待っていてください。

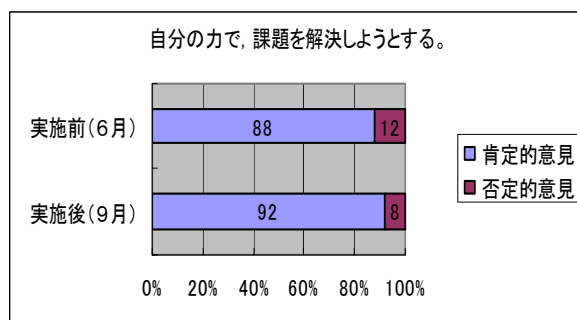
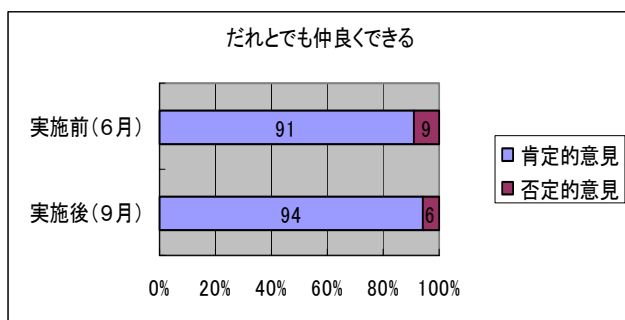
【安全面の配慮事項】

- 野外活動の実施にあたり、緊急連絡網を作成し、緊急時の搬送先や連絡先を教職員が周知した。また、養護教諭が、児童の健康面（車酔い、食物アレルギー、薬の服用、便通、月経、その他）の配慮事項の一覧表を作成した。薬の服用者については、点検表を作成し、チェックを十分に行った。児童の中には、自分が何の薬を飲んでいるか知らない者もあり、薬を服用する目的など、保護者から児童に説明しておいてもらう等の保護者連携が必要だと感じた。
- 体験活動を安全に行うためには、日頃から児童の危機管理意識を高めたり、ルールを守ることの大切さを理解させたりしておくことが大切である。薪割り体験では、地域の指導者より、危険性について十分な説明を受けたことで、児童は緊張しながらも薪割りを行うことができた。また、安全面で特に配慮が必要な体験活動については、教職員の参加体制を強化し、多くの人数で指導に当たった。

【体験活動の成果と課題】

<成果>

- 一つ一つの体験活動に時間をしっかり確保したことで、児童が失敗をしたり、つまずいたりしながらも最後までやり通すことができた。また、1日目にはできなかったことが、2日目、3日目にはできるようになった児童も多くいた。失敗したことをやり直すチャンスがあったことが、児童の大きな自信につながった。
- 学校生活とは違った生活を送ることで、児童が相互にかかわる時間を十分もたせることができた。その結果、友だちとかかわることの楽しさを感じた児童が多く、アンケートでは、「だれとでも仲良くできる。」と回答した児童が増加した。
また、集団で考え行動する経験を多く積んだことで、「自分の力で課題を解決しようとする。」という回答も増えた。
- 野外活動に係る指導を全教職員で行ったことで、体験活動の重要性について共通認識をもつことができた。また、教職員相互のかかわりも深まった。



<課題>

- アンケートの結果では、全体的に児童が成長していることが分かるが、個に焦点を当ててアンケートを分析し、今後の指導に生かしていく必要がある。
- 保護者アンケートでは、3泊4日の体験活動に対する満足度は、90%と非常に高かったが、中には、「体験活動による児童の変化は見られない。」という厳しい回答が多少あった。今後は、どのように児童の変容を見取っていくか、あるいは、体験活動を日常生活にどう生かしていくか、保護者と連携していく必要がある。
- 3泊4日の長期宿泊体験を実施するには、「経費の節減（保護者負担の軽減）をどのように図るか」や「活動効果の高い宿泊施設の選定」等、事前の検討を十分に行うことが大切になる。